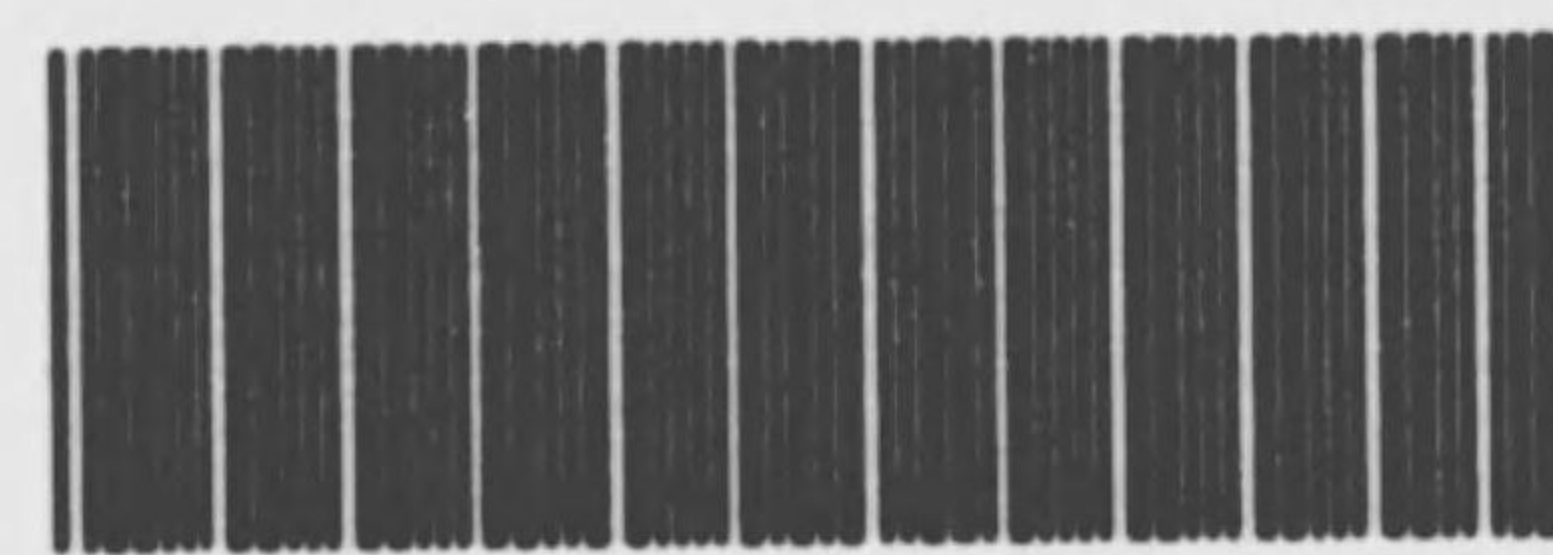


AZ
251
217



0006425000

0006425-000

AZ-251-217

総選挙闘争報告

社会大衆党出版部・編

社会大衆党出版部

1936. 4

ABE

AZ
251
217

總選舉鬭爭報告



改訂版

社會大眾黨出版部發行

日五十月三年一十和昭

果然 肅選の新鮮味

社大の燦たる新記録

果然政友を躍進!

十八名の當

躍進!

五十三萬一千

社會大衆新聞

轉換期日本

將來を擔ふ

りて勝等我

黨派別當選者數

廿二日前半時現在

民政	八七名
政友	一〇八名
昭和	一〇名
國民	四名
同和	四名
社大	一五名
中立	一三名
其他	二名
合計	二三九名

見よ!



社會大衆黨パンフレット第十一輯

總選舉鬭爭報告

社會大衆黨出版部發行

AZ
25/
217



77W21957

總選舉鬭爭報告

目次

一	總選舉戦を省みて	一
二	總選舉政綱	七
三	總選舉陣容と鬭爭指令	一一
四	安部委員長の肅正宣言	一一
五	選舉公報見本	一一
六	立會演説の申込とラヂオ放送	一三
七	我黨の選舉必勝秘策	一三
八	委員長のメッセーシ	一三
九	日比谷の關東大會	一三
十	我黨は勝利を信ず	一三
十一	我等は遂ひに勝てり	一三

十二	我黨の總選舉費用.....	三六
十三	第四次普選各派成績.....	四〇
	第一表 無産派及右翼派得票明細表.....	四〇
	第二表 無産派及右翼派比較表.....	四五
	第三表 無産派戦績比較表.....	四六
	第四表 衆議院議員黨派別一覽表.....	四七
	第五表 無産政黨普選戦績表.....	四八
附 録		
	我黨代議士の略歴.....	

普選第四次總選舉戰報告

一、總選舉戰を省みて

今回の總選舉において我黨は、都市と言はず、農村と言はず、國民大衆の狂熱的な支持によつて壓倒的な大勝を博した。昨秋の府縣議戰における我黨の好戦績に鑑みて、多少の期待をかけてゐた人はあつたかも知らぬ。既成政黨もまた政黨内閣制の下におけるとは、多少の勝手が違ふことを覺悟してゐたかも知らぬ、然しながら國民大衆の要望が斯くも壓倒的に我黨に集中せられやうとは世間の誰が豫期し得たであらう。

普選第一回總選舉以來すでに十年、總選舉も今回をもつて四回目である、然るに過去三回の總選舉に比較して、今回の總選舉が如何なる點において相違して居つたかといふに、いろいろの細かい點を省略すれば、資本主義機構とその政治的構造とが填類し始めたといふことが第一である、所謂非常時である。

この國家非常の時機に際會しては、國民大衆の政治的意識は飛躍的に成長したのである。平穩

無事の日に生を享け、舊來の機構と秩序の維持墨守のみを念とし希望としてゐるところの既成政治家、並に所謂政治の玄人たちは、この大衆の飛躍的成長を理解することが出来ない。いな、彼等はそれを欲しないから、理解しやうとしないのである。

我黨は總選舉戦を通じて、既成政黨が今日の非常時局において國政を擔當する資格を喪失したことを主張し、そしてそれは結局、彼等の立つてゐる基底——資本主義經濟制度——が國民の生活に給養する能力を失つたからであることを強調した。換言すれば、「先づ國內改革の斷行」こそ、我黨の當面の政治的要求であつた。

我黨はこの國內改革を斷行するに「勤勞議會政治の建設」によつてせんことを主張したのである。これはすなはち、一面においては議會を既成政黨の壟斷から救ひ、他面に於ては議會闘争を無視せんとするフアツシヨの潮流を撃破せんとするにある。議會を國家革新の舞臺たらしめるといふこと、これこそ我黨が總選舉戦に於いて國民に公約した集中的スローガンである。

無產政黨樹立されて十年！ つひに無產政黨の主張は全國民大衆の絶對なる支持を獲得した。この間或は陣營の大半は、反動の嵐に吹き捲くられて、墳滅にさえしぼ／＼陥つた。滿洲事變を契機とするフアツシヨの波の高揚は、これまたわが陣營から多くの同志を轉落せしめた。だが、不滅の信念によつて固守された我が社會大衆黨は、この吹き荒さぶフアツシヨ反動の嵐に、よく

堪え、血涙こもる同志の堅き血盟は、つひに今日の大勝を獲したのである。苦闘十年、勞働組合運動及び農民組合運動による階級戦線の火蓋切られて十有五年！ こゝに「勤勞者大衆政治」の礎石を築き上げ、勞働者代議士、農民代議士を議會に送り出し得たことを、吾人は全國の勤勞大衆とともに喜ぶものである。時代は、いまや一轉しました再轉し、名實ともに「轉換期日本」を現出しつつあり、この秋吾人は、ます／＼この大衆的政治勢力を集結し、我等が使命に向つて突進せねばならぬ。我等の闘争は將にこれからである。我等は、今次の選舉闘争において、國民大衆の要望に答へて公約した諸政策の實現に向つて、決死的闘争を展開しなければならぬ。後退を餘儀なくされた既成支配群は、だが最後の結集を試み、吾等に迫つて來るであらう。我等は國民大衆と共に、前進また前進、躍進また躍進「新勤勞議會政治の確立」のために戦ふであらう。

今回の第四次普選は、わが日本政治史上に、劃期的事象を投映した。全國樞要地に三十名を立候補せしめたわが黨は十八名を當選せしめ、しかも中十一名は最高點當選を獲得した。

例へば麻生書記長は五萬二千二百五十一票を得て第二位ではあつたが、加藤氏の五萬三千七百四十八票と共に我國選舉戦に於ける未曾有なる超最高得點を示し、無產陣營に投ぜられた十萬六千票は、政、民兩黨の斯波、牧野、伊藤の合計票數八萬七千六百票を優に超過してゐるのである。また、河上議會部長の三萬六千八百八十票は、兵庫一區全體の政友得票數を優に凌駕し、この東

4 京五區と云ひ、兵庫一區の如きは同一地區にわが黨二名を上位で當選せしめ得るだけの實力を示したのである。しかも、この優勢は單なる東京、兵庫の現象のみではなく、今回の選挙戦に現れた全國的趨勢であつた。

かくて、我黨は群小フアツシヨ團體を一蹴し、國民同盟を尻目にかけて、堂々と第三黨的地位を確保し、更に今日では十八名の代議士の以外に、栃木の石山、宮城の菊地、福岡の田原、兵庫の河合の各次點者も、早晩、繰上げ當選に至るであらうと観測され、こゝに通常議會には「二十名」のわが黨代議士を議場に送り出すことができると豫測されてゐるのである。この趨勢よりすれば、次回の總選挙には五十名の代議士の獲得は確實となりつゝあるわけである。いま試みに各派の當選率を示せば左の如くである。

民政黨	六割九分五厘
社會大衆黨	六割
政友會	五割一分八厘
國民同盟	四割五分五厘
明和會	四割一分七厘
諸派	二割七分三厘

中立 二割四分七厘 (東京朝日調査)

絶對多數を誇れる政友を凌駕し、わが黨の六割の當選率は腕無しの高三郎を首無しの高三郎たらしめた片山哲の奮戦にも見られる如く、こゝに既成政黨凋落の事實を看取することができる。その反面にまたわが黨の著大なる躍進を見ることができるのである。それは、吾々が過去數回の普選の結果と對比することによつて、より明白となる。

選挙年次	立候補者数	當選者数	總得票数
昭和三年第一次普選	八八	六	四八九、七四三
同五年第二次普選	一〇一	五	五二四、〇一八
同七年第三次普選	三三	五	二七四、五〇二
同九年第四次普選	三〇	一八	五四一、〇六六

(備考 十一年度は我黨のみ)

5 すなはち、今回のわが黨總得票数五十四萬一千六十六票といふ増大は、普選第二次の五十二萬四千票を遙に抜き、こゝに動かすべからざる勤勞者大衆政治の礎石を築き上げることができたのである。

然らば、かゝる大勝の基本は何が決定したか？ とりも直さず「選挙は政策闘争である」。わが黨が選挙スローガンとして掲げた「先づ国内改革の断行」「大衆増税反対、資本家増税の断行」及び「民衆富んで国防全し」更にその實現手段としての「勤勞議會政治の確立」が、もつとも正しく時代の動向を示し、國民大衆の要望に合致し、政策の貧困なる既成政黨の凋落は亦必然となつたのである。しかもかゝる政策中心の選挙闘争を、最も合理的に遂行せしめ得たのは、吾等年來の主張たる理想選挙が「選挙修正」によつて實現されたからである。かゝる選挙手段の公平を土臺として我が黨がその支持團體たる日本労働總同盟と全國労働組合同盟との合同による「全日本労働總同盟」の十萬の陸上労働者及び海上十萬の同志の日本海員組合とによる「日本労働組合會議」を背景に、更に四萬の全國農民組合と一萬の日本農民總同盟を土臺として、この統一された戦線の上に立つて、唯一の無產政黨たる地位の上に戦はれたこの集結された強力を以て、敵陣に肉迫することができたからである。すなはち今回の選挙の大勝は我黨の政策が國民の要望と合致し更に闘争の條件が「修正選挙」によつて整へられ、しかも陸上十萬、海上十萬、組織農民六萬を土臺に強力に戦ひ得たからである。したがつて、今回の選挙戦は候補者個人の個人的な力で當選しまた大勝したのでは斷じてない。

故に個人的事情に重點を置き、「政策の貧困」を感情に訴へることによつてゴマカす既成政黨の凋落はまた必然であつた。それは、すでに時代が、「魂を具備する者のみの少數」によつて、リードできる時代に轉換して來たからである。そこには、單なる精神主義の政治もなければ、また單なる抽象化された公式主義の政治も役立たぬのである。こゝに日本主義・愛國主義の群小フアツシヨの没落があるのだ。國民同盟の悲運も、政友會の倒落も、また、こゝにある。魂のなき、信念のなき見透しを持ってぬ政治家には、いまは存在の餘地すら與へぬ情勢にあるのである。こゝに、次の時代を背負つて立つわが黨の勝利の必然があるわけであつた。

二、總選挙政策

我が黨は、選挙戦の重點は政策闘争になければならぬことを從來主張し且つ實踐し來つたのであるが、今日の總選挙に於いても、この點何等の變更はなかつたのである。既成政黨の選挙戦には政策闘争がない。彼等の政策は單なる看板にすぎない。それは不正商人の見本市と同じである。今回の選挙戦の中心目標だつた「選挙の修正」も結核選挙を政策闘争に集中することによつてのみ達せられることである。我黨はかゝる見地から選挙政策の作成に對しては最も努力を拂つた。

我黨は既に一月二十日の昭和十一年度年次大會に於いて次に掲ぐる選挙政綱を決定し、更に、それが解説のパンフレットを發行し徹底を期したのである。政策解説のパンフレットは、第二卷

「社會大衆黨の革新政綱」國內政治機構の改革と産業政策」第一卷「危機に立つ國際政局」第三卷「同財政々策と社會政策」左に政策の要綱を示さう。

一、中心スローガン

- 一、先づ國內改革の断行！
- 一、民衆富んで國防全し
- 一、過去か未來か、既成政黨か大衆黨か
- 一、真正の一翼は大衆黨へ

一、中心政綱

- 一、勸業議會政治の建設
- 一、大衆的増税反對
- 一、國民年金制の即時制定
- 一、民衆同工金庫の設置
- 一、重要産業の國營化
- 一、農産損失の國家補償

一、選舉政策

政治政策

- イ、選舉公正の徹底
 - A、買収犯の嚴罰
 - B、混同開票制の採用
- ロ、選舉法の即時改正
 - A、大選舉區（一府縣一選舉區）比例代表制
 - B、有権者年齢を滿二十歳まで低下
 - C、選舉公營の徹底
- ハ、職能代表による貴族院改革
- ニ、國民經濟會議の設置（内閣審議會の廢止と内閣調査會の根本的改革）

欠

MISSING

三、總選舉陣容と闘争指令

我が黨の總選舉對策は、常任中央執行委員中より特別對策委員を任命し、この總選舉對策委員會を選舉戰の參謀本部たらしめ、こゝで一切の總選舉戰略を作成し行つた。委員長に三輪壽壯氏、事務長に平野學氏、委員に、片山哲、松永義雄、河上丈太郎の三氏を任命した。同委員會は一月三十一日次の如き指令を發して闘争の火蓋を切つた。

總選舉闘争指令 第一號

第六十八議會は一月二十一日遂ひに解散せられた。今こそ我等は多年の鐵火の闘争の成果を集結し一舉に老廢既成政黨を迎撃せねばならぬ。全國の全黨員よ、奮起せよ、我等は斷然總選舉戰を勝利し、政治の第一線に進出し、國民大衆の要望を體して國家革新の爲めに闘はねばならぬ。

普選第四回總選舉戰に際し左の如く指令す。

一、候補者の決定

イ、候補の氏名、年齢、職業、住所、闘争經歷、寫眞並に人選に至る迄の黨機關に於ける意見決定等の書類

を取捕へ黨本部總選舉對策委員會に正規の公認手續を取る可し。
 ロ、公認申請書には必ず本部開争基金、金五十圓也を添付す可し。
 二、立候補なき地區の開争

イ、立候補なき地區はその旨を直ちに電報にて本部に通告す可し。
 ロ、黨の開争を選舉肅正運動と結びつき選舉監視の開争を爲す可し。
 ハ、立候補なき地區の有力黨員は立候補地區に動員すること。

但しその他の場合は必ず本部の承認を求む可し。
 三、肅正選舉に就て

イ、選舉肅正は黨として屢々當局に要求しその徹底を期せんとするものなれば、黨員は此の趣旨にもとることなき様公明正大に行動す可し。
 ロ、形式的違反行爲も選舉の結果に不利を招くものなれば、運動員は選舉法に注意して違反行爲の絶無を期すべし。

四、安部委員長の肅正宣言

以上の總選舉戰に對する基本的準備を完了すると共に、直ちに戦端を開き、第一彈として、安部委員長の選舉肅正宣言を天下に表明した。(次のカットは東京日々新聞記事より轉載)

安部社大黨 肅正宣言



安部委員長は廿二日午後二時東京中央執行委員會を召集し、日本黨員服務部山下マーカーの報告に對し、三時、河野平

費用千五百圓

黨候補者へ嚴然要望

選挙をして友人たちに迷惑をかける。今回は肅正選挙でその悪習に自分も賛成した。この選挙費用を徹底的に自制して肅正の精神に導きたい。よつて左の言行案を提案し黨よりの候補者として友人たちに迷惑をかける。かくしても一回分につきピラ、人夫代が卅圓につきことを留意された。

選挙本部では肅正選挙にふさわしい安部先

生」の決意を尊重しなるべくこの趣旨に副ふこととなつたが選挙公報の新らしい企画を全面的に活用せんとする。黨の態度は注目される(選挙は安部氏)

にも守つて貰ひたい、即ち

- 選挙費用を千五百圓に限る
- 選挙公報を極度に利用する
- 郵便物による挨拶状は絶対に禁止のこと
- 演説第一主義のこと、會場は選挙公報によるもののみ、

五、選舉公報見本

對策委員會は、一方、選舉に於ける言論統制の爲に候補者並に應援辯士用として演說草稿「最近の社會情勢と社會大衆黨」を起草し、之れを發送し、又公營に依る選舉公報の爲に公報見本三

通を作製した。次に公報見本中の一種を示さう。

選挙公報 (草案第二)

私は、今回の衆議院議員総選挙に當り、社会大衆黨公認候補として、當區より立候補致しました。私が、不敏を自ら揣らす敢へて立候補致しましたのは、國民の要望する議會改革、國家革新の大事業は、我が社会大衆黨の議會進出によるのでなければ不可能であり、而して今や將にその時は來つゝあると固く信じたからであります。

社会大衆黨は、昭和七年七月、あの反動的風潮の旺盛を極めた時代の眞唯中において、社会民衆黨と全國勞農大衆黨との歴史的な合同によつて、結黨致しました。これによつて我國の無産政黨は、その創律以來の内部抗争を克服し、こゝにその本流を確立したのであります。

顧みるに、大正十五年に我國で始めて無産政黨が結成されて以來、今や將に十年であります。十年の歲月は、或は短いとも言ふことが出來ませう。然しながら、御承知の如く、この十年は平穩無事の日の十年ではなかつた。世界的にも、また國內的にも不安と激動との十年であつた。無産政黨そのもの内部的に全く面目を一新しましたが、然し私どもは何よりも、我國の全政治の

中における無産政黨の役割、その重要性が、昔日とは比較にならぬものとなつて來てゐるといふことを、こゝに指摘せねばなりません。

普通選挙實施以來、昭和三年、昭和五年、及び昭和七年、過去三回の總選挙において、無産政黨の戦績は、遺憾ながら芳しくはなかつたことは事實であります。具眼の士といへども、たゞ政治上における一の刺戟劑としてのみ、無産政黨の役割を認めただけにすぎませぬ。一般には、依然として、既成政黨が恰かも動かすべからざる威力を持つてゐるかの如く感ぜられてゐたのであります。

然しながら、既成政黨は、果して眞實に國民の支持を得てゐたか。彼等にして、もし國民の支持を確信することが出來たならば、五・一五事件以後、何を好んで退却に退却を重ねたのでありませう。

血盟團事件、五・一五事件等々、彼等を脅威した一聯の事件は、その中に多分の反動的傾向を持つて居り、私共はかゝる事件に絶對反對なのであります。然し乍らこれを客觀的に見ると永年に亘る既成政黨の非政、資本家財閥本位の政治に對して、鬱積してゐた國民の反感を表現したものであるといふことは、否定すべからざる事實であります。

今こゝで既成政黨の罪惡を數へ立てる必要はありませんまい。彼等は實に何等國民的支持を持つてゐなかつたのである。彼等が議會を獨占してゐたのは、實に選舉に於ける買収と情實と干渉との醜惡なる結果に外ならなかつたのである。だからこそ彼等は、脆くも政權の中樞からその地位を追はれ、軍部及び官僚に政治上の指導權を渡さねばならなかつたのであります。

然るに、いふまでもなく、我國の軍部及び官僚は、統一ある組織的な政治勢力ではありませんぬ。既成政黨が國民の信頼を失つたがために、次の新たな段階に至るまで、假りにその地位にあるものにすぎませぬ。

待望されたるもの、次の新たな時代の擔當者、それこそは、勤勞大衆の政治勢力、即ち我が社會大衆黨に外ならないのであります。

今や時代はかく要求するのであります。

既成政黨は、立憲政治の美名によつてしきりに國民に呼びかけて居ります、既成政黨の本質たる露骨な資本家財閥本位の政黨政治に再び復歸することは、これは歴史の逆轉であります。社會は逆轉してはなりません。新しい立憲政治は、勤勞大衆の眞實の利益を代表する勤勞議會政治でなければなりません。

○

今回の選舉に當つて、私共は、數をもつて既成政黨と争はうとしてゐるのではないことは明白であります。勿論私共の主張してゐる一府縣一選舉區の大選舉區比例代表制が實現されば、既成政黨を脅威し得るに足る數の議員は、現在でも容易に獲得出来るのであります。今はそれよりも、以上に述べました歴史的な使命を背後に負ふて、當面左の如き政策の實現のために戦ふことを期してゐるのであります。

一、中心政綱

一、勤勞議會政治の建設

一、大衆的増税反對

一、國民年金制の即時制定

一、民衆商工金庫の設置

一、重要産業の國營化

一、農産損失の國庫補償

一、政綱

一、政治政策

(イ)選挙肅正の徹底 (A買収犯の嚴罰、B混同開票制の採用) (ロ)選挙法の即時改正 (A大選挙區——一府縣一選舉區——比例代表制、B有権者年齢を滿二十歳まで低下、C選挙公營の徹底) (ハ)職能代表による貴族院改革、(ニ)國民經濟會議の設置 (内閣審議會の廢止と内閣調査局の根本的改革)、(ホ)内閣制度及行政機構の改革

一、財政政策

(イ)軍事費の標準化、(ロ)税制の根本的改革 (A大衆課税の廢止、B綜合財産税の創設) (ハ)社會的交付金十億圓、(ニ)國債利子支拂猶豫

二、産業政策

(イ)重要産業の國營、(ロ)配當制限法の制定、(ハ)農業損害保險の創設、(ニ)中小商工業者及農民の生産資金の無擔保金融 (A民衆商工金庫の創設、B國立農業信用銀行の創設、C農家借金支拂猶豫) (ホ)都市農村の均衡化

一、社會政策

(イ)國民年金 (養老、寡婦、孤兒年金) 制の確立、(ロ)労働者保護法の制定 (A労働組合法の制定、B海員法の改正、C労働者最低賃銀法の制定、D失業保險制の確立、E母子扶助法の制定、F商店員保護法の制定)、(ハ)小作法及小作組合法の制定、(ニ)國民健康保

險制の確立

私が、社會大衆黨の一員として、以上の政策實現のために、決して御期待に背かぬ努力を傾倒するであらうといふことは、私の履歴によつて御信用を賜はり度いと思ひます。

私は明治何 年何 縣 何 々 〇 に生れ、……………

(こゝに略歴を入れる)

又この公報見本の發送について次の如き注意を發した。

公報見本についての注意

一、本日公報文案見本三通を作成し發送す。

一、地方の情勢に應じ更に加減取捨して適當のものを作成すること。

一、公報は選挙投票の三四日前漸やく有権者の手元に配布さるゝやうである。従つて同一區より十數名の立候補者ある場合一人の有権者は十數通の無味乾燥なる公報を見るわけだが、常識的に考へて全部を通讀して投票を決定することは考へられない。公報の字數三千字、これをぎり／＼一杯につめ込んで餘白を残さないようなやり方は効果的でないように思ふ。むしろ立候補の事情、経歴、及び肅正の一票を願ふ簡潔にして、要を得たるもので而かも紙面に十分の餘白を残し、一見して讀み得るものゝ方が返つて効果的と思ふ。

一、公報の外に無料挨拶狀を差出すものは特に公報の作成に注意し極く簡潔に貫下の一票を是球頼む意味のこ

六、立合演説の申込とラジオ放送

我黨は一月三十日緊急常任執行委員會を開催し、今回の總選舉戦を眞に劃期的意義あらしむる爲め、各黨の政策を中心に堂々の戦を爲し、その方法として東京に各政黨代表の政策發表大立會演説會を開催し、之れをラジオを以て全國に中繼すべきことを決定。直ちに三輪對策委員長、阿部茂夫、平野學の三名をして各黨を歴訪せしめ、政友會では松野幹事長、民政黨頼母木總務、國民同盟大竹顧問、昭和會内田鐵相等に直接提議書を手交賛同を求めた。

然るに政策を有せざる既成政黨、肅正選舉にも何等覺醒なき彼等は依然として鼓を閉ざして賛成せず、何等の理由なく遁げを打つた。救はれざる者よ、それは腐敗骨肉を喰みつゝある既成政黨だ！ 彼等は最早や解消せしめる以外に救ふ道はない。

我等の提唱文

昔選第四次總選舉は、今や、全國の戦野に白熱戦を展開せんとしてゐる！ 今次政戦の中心題目は選舉肅正、政局の明朗化であるが、それは單に買収、腐敗選舉の根絶が總てではない。寧ろ選舉戦を本來の面目たる「各黨の政策闘争」に集中せしむることこそ眞に總選舉戦を意義あらしむるものと信ずる。

我黨はかゝる見地に立ち来る一月十一日紀元節の佳節を期し政府、政友會、民政黨、國民同盟、昭和會、並に社會大衆黨の總選舉政策發表大演説會の開催を提唱す。

政策發表大立合演説會について

- 一、期日 二月十一日正午より四時迄
- 一、本演説はラジオを以て全國に中繼すべきこと
- 一、政府より岡田總理大臣並に後藤内相の出席を求め選舉肅正並に政府の選舉方針を演説せしむること
- 一、出演者は各黨總裁又は之れに代るべき黨代表一名宛のこと
- 一、出演者の出演時間は一人四十分以内とす
- 一、主催者は政友會、民政黨、國民同盟、昭和會、社會大衆黨の共同主催
- 一、各黨各一名宛の實行委員を選び準備を一任す
- 一、費用は等分し共同負擔のこと

七、我黨の選舉必勝秘策

我黨の選舉秘策は別がない、唯正攻法を以つて、如何に言論戦と文書戦を組織し展開するかにある、對策委員會は一月二十八日即ち我黨の選舉必勝秘策を具して次の如き指令を發した。

總選舉情勢並に闘争の組織について

一、總選舉戦は今や第一期準備期を過ぎて愈々言論闘争期に入つて戦ひは激烈ならんとしてゐる。我黨の選挙闘争は飽迄正攻法をとり言論戦に全力を集中し、殊に演説會の組織については府縣會選舉戦の經驗を結集し、黨の總選挙政策を強調し、この點に於いて既成政黨を斷然壓倒す可し。

二、演説會の應援辯士は

イ、一人は候補者の闘争履歴を詳細に述べ、無産運動に於ける地位、及びその議會に於ける闘争力を推稱し、個人的、社會的人格を有權者に極力訴ふ可し。

ロ、一人は黨の政策を強調し徹底的に有權者の肺腑に浸透せしむ可し。

ハ、各辯士は論旨を代へ、同じ内容構成を有たざる様注意し、演説に變化を求めねばならぬ。

ニ、演説はあくまで氣魄を以つて嚴肅に、眞剣に、側々として人に迫るものたる可し。

三、言論戦の方法について

イ、宣傳戦は大體之れを三期に分け、第一期は最大限に聴衆を動員吸引する爲め、嚴肅の中にも興味を加へ、明朗性をもたせ、人氣を我黨候補の演説會に集中せしむるよう努力す可し。

第二期は堂々たる態度を以つて理論的に正面から我黨の政策主張を訴へ、迫力を以て聴衆を引きつく可し。

第三期は情に訴へ聴衆の感激と人間性を握む可し。

四、我黨候補必勝當選の秘策

イ、府縣會選舉戦の組織を以つてすれば我黨必勝の第一要程は先づ言論戦に於いて壓倒的勝利を把ることである。即ち聴衆の大動員を行ふことである。

ロ、聴衆吸引の方法はピラをなる可く多く撒くこと、聴衆数はマキピラの枚数の百分の五と思へ、一千人の聴衆を動員せんとせば二萬枚のピラを撒け。

ハ、従つて勞務者は精選し眞に我黨勝利の爲に身を以つて當る可き眞摯、活動的青年を採用す可し。

六、立會演説について

イ、我黨候補者は對立既成政黨候補に對し立會演説會を申込む可し、立會演説會に於ける言論の勝利は人氣を把む最もよき方法なり。

以上

八、委員長のメッセージ

今回の總選舉では新選挙法によつて辯士が三名に制限され、既成政黨では辯士の不足を補ふ爲めに盛んに各黨總裁のレコードをかけて人集めと時間つぶしをやつた。

我黨では辯士と演説では少しも不足も感じないが、既成政黨のレコードに對抗し、手輕な安部委員長のメッセージを各候補者並に選挙事務所に送達し、之れを辯士に讀ませることにした。資金を有たぬ我黨は元で入らずでレコードの向ふを張つて肉聲で委員長の意志を選挙民に傳へることとした。

フアツシヨ排撃!

新議會政治建設へ

大衆階級 國民に呼びかく



メツセージ

親愛なる

區有権者諸君

私は、今回の普選第四次總選舉戦に際し、社會大衆黨を代表し一言御挨拶を申述ぶることを非常なる光榮と存じます。

前回大衆内閣の下に行はれた總選舉より歳月を経ること四年、この四年は日本の社會に實に深刻なる變化を捲き起し、所謂非常時を惹起したものであります。

五・一五事件は資本家階級と其の政治的代辨者たる既成政黨に一大打撃を與へたのであります。既成政黨は此の一撃を蒙つて脆くも崩壊の道を辿り始めました。その結果は、一時日本の社會はフアツシヨの嵐に吹き捲くらるゝの觀を呈したのであります。

併しながら、一時熾烈に燃え盛つた此のフアツシヨ的空氣も、時と共に下火となり、今やまさに消え去らんとするに至りました。而してフアツシヨ的空氣の退潮と共に、新らしく今勃興し來つた氣運こそは、選舉肅正の國民的運動に依つて裏づけられつゝある新議會政治建設の大勢に外ならぬのであります。

何故に五・一五事件は勃發したのでありませうか。議會政治が今日の如く不信川となり、既成政黨が今日の如く没落するに至つたのは何故でありませうか。

顧るに五・一五事件勃發以前、日本の議會政治は果して如何なる状態に置かれてゐたのでありませうか。大正九年以來の不景氣は年と共に深刻となり、爾來十五六年間、勞働階級、農民階級、中小商工階級、知識階級は、窮乏のどん底につき落され失業の苦痛に喘ひで、深刻に政治的、經濟的政策を要望し來れるに拘らず、議會は、資本家階級の代辨者たる政民兩既成政黨に獨占せられ、その結果は、議會は國民大衆の要望する政治の舞臺たる性質を失つて、徒らに、既成政黨の疑獄事件發生の温床と化し、世人は議會を呼ぶに『日比谷の猿芝居』を以つてするに至つたのであります。一國の政治の中心が斯くの如き状態となつては、國家の危ふきこと果卵の如く、國民大衆が既成政黨と之に獨占せらるゝ議會に對して憤懣するに至るは理の當然と言はねばならないのであります。五・一五事件勃發の原因は實に茲に存したのであります。既成政黨の大多數は、

其の代議士たるや、政策の上に立つて正しく當選したるにあらず、権力と金力に依つて之を贏ち得て居たのであります。政黨内閣に於ける内務省は與黨の全國的參謀本部であり、内務大臣は參謀總長であり、縣知事の如きは與黨の運動員に過ぎなかつた。斯くの如くして、無産黨を彈壓し、反對黨を交々彈壓して獲得した代議士であります。何等眞面目な政治的意味を有しない既成政黨が五・一五事件に依つて崩壊の道を辿るに至れるに對し、國民大衆がこれに何等支持を與へずして拍手喝采したのは、蓋し當然と云はなければならぬのであります。

有権者諸君

併し乍ら、五・一五事件勃發に依つて既成政黨が一敗地にまみれたるに對し、これ國民大衆がフアツシヨに賛成したのであると斷定するは餘りにも早合點であります。惟ふに日本の議會政治は明治大帝が憲法によつて定め給ふたところのものである。日本に於て、明治大帝の定め給ふた憲法が、少數者の暴力によつて蹂躪せらるゝ等と云ふことがあり得るでありませうか。そういう事は出來得ないことである。單にそればかりではない。日本の社會情勢は、フアツシヨの生れた伊太利、獨逸とは全く異つて居るのであります。日本に於いてはロシアに發生した共產黨の運動が國情と社會事情とに合はざるが故に成功せざると同じ意味に於いてヒットラー、ムツソリニの運動も亦日本に成功しないのであります。日本精神を高唱する所謂反動派や、愛國團體が、皇

室の存在と相背反するムツソリニーやヒットラーを崇拜して之を模倣せんとする如きは、笑ふべき矛盾と云はなければならぬのであります。

有権者諸君

フアツシヨ的空氣の退潮と共に、選舉肅正の聲が朝野の國民的運動となつて現はれて來た、然しながらそれは單に買収や戸別訪問や干渉を行はしめないと云ふだけの單純な意味ではない。金權の爲めに歪められ來つた選舉を肅正することによつて、迫りつゝある國家の改革を、フアツシヨ的な建前、換言すれば、少數者の獨裁的な暴力に依らず、國民大衆の總意の上に立脚する合理的な建前の上に行はしめんがために、新しき議會政治の建設を國民大衆が要求してゐることを意味するのであります。

然らば、新らしき議會政治の建設とは何であるか。それは政治を再び五・一五事件の以前に返して、政民兩既成政黨に議會を獨占せしめ、議會をして、疑獄事件の温床たらしめ、無意味なる政權争奪場たらしめ、『日比谷の猿芝居』の舞臺たらしむるためでは斷じてない。即ち議會の中に資本主義に對する革新的新興勢力、勞働階級、農民階級、中小商工階級、智識階級、階級の生活代表する勢力を進出せしめ、議會をして、資本主義改革、國家革新の眞の舞臺たらしむる事でありませう。

有権者諸君

選挙肅正は、從來既成政黨が行ひ來つた投票の賣買を禁ずることであり、政黨内閣に依つて行はれ來つた選挙の干渉を禁ずることでもあります。即ち既成政黨の手に依つて長い間行はれ來つた金力権力の選挙を排撃し、有権者を投票に對する自由の立場におくことでもあります。金力の誘惑、権力の束縛から有権者を解放し、自由の意志の下に、自己階級の求むる政治的政策に向つて正しき一票を投ぜしむることでもあります。如何に立憲政治と云ひ、また形式上投票に依つて國民は政治に發言權を有すると云つても其の投票が金力に誘惑され、因縁情實に左右され、権力に歪められてゐたのでは、投票そのものに政治的意味はないのであります。選挙の肅正に依つて、各人が自分の生活に基き、正しく政治的政策の上に一票を投ずるに至るならばその結果はどうでありませうか。資本主義のために苦しめられて居る國民大衆の投票は自ら、資本主義を改革して國民大衆の生活の安定を志す無産政黨に投ぜらるゝに至るは理の當然であります。

果せるかな、選挙肅正の下に行はれた過ぐる府縣會議員選挙に於いては我が社會大衆黨は歴史的進出を遂げたのであります。而して今回の衆議院選挙に於いても、輿論が我黨の進出を信じつゝある所以であります。ファッショ的空氣を退散せしめて政治を國民大衆の基礎の上に置き、國家改革の偉業を國民大衆の手に依つて行はんとする道は唯一つ、資本主義の反對勢力たる國民大

衆の生活を一身に背負つて立つ我が社會大衆黨を議會に進出せしめて、新らしき國民大衆のための議會を建設することでもあります。之は唯々我々が欲するばかりでなく、日本の國情と社會の情勢とが欲しつゝあるのであります。さればこそ我黨の進出に道を開らく選挙肅正運動が國家の聲となつて、澎湃たる國民的運動となり來つたのであります。

我々は今回の總選挙に對してかくの如く重大なる意義を感じつゝあります。願はくば社會改造、國家革新の偉業に協力せんがため、我黨候補者〇〇〇〇君に絶大なる支持を賜はらんことを、切望に堪へないのであります。

昭和拾壹年貳月 日

社會大衆黨

中央執行委員長 安 部 磯 雄

メッセーヂ發送と同時に、對策委員會は更に、次の如き通達を發した

一、メッセーヂに就いて

本日同封にて安部中央執行委員長のメッセーヂを送達した。

演説會に於いて司會者又は辯士が演説の前に朗讀され度し。文案についてはなほ適當に修正さるゝも差支へ

なし。

二、言論戦の動員に就いて

總選挙戦も愈々第三期に入り最後の一大突撃をこころみる可き時期である。我黨は飽くまで正攻法を以つて既成政黨の牙城に肉迫せねばならぬ。我黨の最大の武器たる言論戦に全力を集中し聴衆の動員に最も工夫をこらされ度し。その方法として

イ、マキピラ

マキピラは聴衆動員の最も有力なる方法である。前回の指令にも述べし如く、一會場につき一萬枚以上を必ダマク可し。但しそれは勞務者に最も効果的に努力させるを要する。

ロ、廣告郵便の利用

マキピラのみにてはなほ演説會通知の萬全を期し難し。同封の如き演説會告知の廣告郵便を利用され度し。一會場につき千五百枚乃至二千枚程度を發送すること。但し廣告郵便は同一市町村内にあらざれば郵送料の割引少なし。最後の突撃には殊に大都會地に於いてはこの廣告郵便を利用すれば最も有効と信ず。

ハ、新聞折込

更に新聞折込を利用して演説會の告知を爲すこと。費用は新聞配達店とよく接渉して交渉すれば勞務者を使用するより安くあがる見込。

三、最後の突撃について

今日の選挙戦に於ける勝敗は二月十日より廿日に到る最後の十日間を徹底的に闘ひ抜くことである。樂觀は絶対に禁物！ 政敵候補の情勢を充分に調査し、突撃を敢行す可き候補者及び選區を定め、そこに向つて、廣告郵便、新聞折込等を利用して、最善の努力を爲す可し。

必勝を期して死力を盡して闘へ。

四、黨の機關紙の發送についての注意

去る二月四日黨機關紙を各支部及支部聯合會宛に送達せり、それが配布は選挙運動と混同せらる故注意し、選挙委員、勞務者等はその配布に絶対にたずさわらざること。選挙に關係なき支部員に於いて爲され度し。右通達す。

— 以 上 —

九、日比谷の關東大會

我黨は今日の選挙戦を通じ恰なく國民大衆に呼びかけ我黨の主義主張を天下に闡明すべき機をねらつてゐたのであるが、二月十日日比谷公會堂に於て、關東大會の形式を以つて、大會を開催し、三輪對策委員長司會の下に安部委員長、麻生書記長、淺沼、河野、中村、片山、鈴木、岡崎

の各候補並に何部茂夫氏等が熱辯を振つた。聴衆三千五百、極めて成功を収めた。

宣 言

今や昭和政戦史上に特筆大書さるべき普選第四次総選挙戦が全国的に展開されつゝある、戦ひは既に開始された、今こそ我が社会大衆黨が、全日本の勤勞大衆の代表として、頽廢せる資本主義を、その代辨者たる既成政黨に對し、堂々の迫撃を加ふべき秋である、滿洲事變以來反動の嵐の中に、一時的の洗滌を擡い、にしつあつたファッショは早くも凋落の時到来し急遽なる退潮を餘儀なくせしめられつつある、既成政黨は既にその威信を全く泥土に遺棄し去り、軍部官僚、又國民的要望に應答し得ず、只一つ我黨のみが、勤勞大衆の眞實の黨として要望の焦點となつた、今日における政局の不安定は、即ち資本主義の政治的危機の表現である、しかも外、海軍軍縮會議の最終的決裂は國際對立を愈々益々激化し、内軍需インフレ、低爲替輸出、その他一切の經濟恐慌克服の政策は遂に勤勞大衆の生活窮乏を擴大再生産しつつあり、従つてこの政局不安は今や半永久化し我黨によつて一切の資本主義制度を革新するにあらざれば、斷じて如何なる安定にも到達することは出来ないのである、我が社会大衆黨は、今こそ國內改革の斷行、勤勞議會政治の建設の大節の下に邁進また邁進、もつて資本主義の牙城に肉薄せん。

決 議

我等は今回の總選挙に當り左の中心政策の實現を期す

- 一、勤勞議會政治の建設
- 一、大衆的増稅反對
- 一、國民年金制の即時制定
- 一、民衆商工金庫の設置
- 一、重要産業の國營化
- 一、農産損失の國家補償

十、我黨は勝利を信ず

我等は既に戦ひ終らざるに勝利を確信した。最後の決戦期に入り次の如き聲明書を發して我等の抱途を示した。

總選挙決戦聲明書

普選第四次總選挙戦も餘すところ既に二日となり、愈々戦ひは決戦期に入った。

我等は、今、第六十八議會解散以來すぎし二旬の政戦を省るに非常時局の打開、政界の暗雲一掃を中心目標

とする今回の総選挙に於いて、政府並に既成政黨が依然として政權爭奪の醜態を演じつゝあることを甚だ遺憾とするものである。

見よ！ 政府は徒らに舉國一致の美名にとらはれ、選挙肅正の一枚看板を振り翳すのみであつて、選挙戦を指導して積極的に國民大衆の動向を指示す可き何等の具體的方針を有せず、あたら選挙戦を無意義に終らしめんとしつゝある。

政民兩黨を中心とする既成政黨は我國現代の重大時局を認識せず、何等この時局を打開す可き國策も政策も有せずして、口に政黨の更生と憲政常道の復歸を唱へて國民大衆を偽瞞し去らんとしつゝある。

我黨は今回の総選挙戦を開始させるや直ちに、政、民、國同、昭和會の各黨に政策發表の立會演説を申込み、選挙戦を政策闘争に集中することによつて、選挙肅正を意義あらしめ、選挙戦をその本道に立ち歸らしむ可きことを提唱した。

更らに我等は非常時突破の國民的連動の目標として左の選挙政綱を提げて戦ひ來つた。曰く、

- 一、新勸勞議會政治の建設
- 二、軍事費の標準化
- 三、重要産業の國營
- 四、民衆商工金庫の設置
- 五、國民養老年金制の制定

果せるかな、我が社會大衆黨は今や、我國唯一の勸勞大衆の政黨として、又唯一の既成支配群に對する反對黨として、全國民大衆の熱烈なる聲援と壓倒的支持の下に總選挙戦の最後の決戦に向つて邁進しつゝある。

我等は此支持聲援に勇氣百倍し更らに勇躍して此政黨の勝利を確保せんとするものである。

昭和十一年二月十八日

社會大衆黨

十一、我等は遂に勝てり

選挙戦の結果は國民大衆の壓倒的支持によつて我黨の飛躍的發展となつた。我黨はこの國民的要望に應答す可く次の如き決意を表明した。

總選挙戦を終りて聲明す

激化する國際對立の危機、非常時局突破の爲めに國民の總意に問ふた今回の第四次普選は、我國政治史上の劃期的政戦であつた。

我黨は國民大衆の要望を體して、國內改革の斷行、新勸勞議會政治の建設を中心政策とし、舊態依然たる既成政黨の偽善政策に對抗して、全國に決死的闘争を敢行したのであつた。

果せるかな、我黨の政界革新、現状打破の旗色は反資本主義反既成政黨の繼續せる國民的憤懣に點火し、爆發的なる國民的支持を受くるに至つた。

見よ！ 東京・大阪・兵庫・京都・神奈川等々の各地に於ける我黨候補の未曾有なる最高點當選の戦績を！我等が社會大衆黨は遂ひに勝てり、我等はこの澎湃たる新興勢力を代表し更に勇躍して、来る可き議會に於いて腐肉の如き既成政黨の中央突破を敢行し國民大衆の要望に答へん。

右聲月す。

昭和十一年二月二十一日

社會大衆黨

十二、我黨の總選舉費用

三十名を立候補せしめ、十八名を獲得して我黨の總選舉對策委員會の全費用は次の如くである。

總選舉對策委員會々計報告

収入之高

収入合計金壹千四百拾貳圓七錢也

欠

MISSING

一金五 圖 也 納庫雜料
 一金八拾壹圓拾五錢也 廣告費
 一金九拾六圓四錢也 通信費

一金貳拾六圓七拾九錢也 消耗品費
 一金八拾壹圓參拾七錢也 雜費
 一金貳百拾參圓七拾六錢也 本部通常會計へ貸出

40 十三 第四次普選各派成績

第一表 無産派及石買派得票明細表

所屬	得票	當落順位
東京一區 (五人)		
河野 壽 社	大 一四、三八七	最高當
同 二區 (五人)		
安部 磯雄 社	大 二〇、三七四	最高當
同 四區 (四人)		
淺沼稻次郎 社	大 一三、八〇五	最高當
精谷 磯平 國	同 三、〇四一	十二位落
加藤 喜孝 美	正 一、二六六	十五位落
同 五區 (五人)		
麻生 久 社	大 五二、二五一	二位當
加藤 勤十 全	野 五三、七四八	最高當
同 六區 (五人)		
鈴木 文治 社	大 三八、五四三	二位當
中村 綱男 國	同 一九、九五六	次點落
松谷與二郎 勸勞日本	七、九四〇	十位落
同 七區 (三人)		
中村 高一 社	大 五、八一〇	五位落
神奈川一區 (三人)		
岡崎 憲 社	大 二一、五八九	最高當
久井龍雄 國民協會	三、〇〇九	七位落
湯淺 凡平 國	同 一〇、六〇一	五位落
同 二區 (四人)		
片山 哲 社	大 一九、三八二	二位當
守田 貞記 明 倫	二、〇二八	六位落
埼玉三區 (三人)		
野中 徹也 國	同 二六、一六五	最高當
千葉三區 (四人)		
石橋 彌 皇國農民聯盟	四、六六〇	七位落

茨城三區 (四人)		
風見 章 國	同 三一、三〇二	最高當
山 梨 (五人)		
平野 力三 皇 道	一、二、九七三	四位當
今井 新造 明 倫	一〇、〇六〇	五位當
若尾 金造 新日系	八、二六一	七位落
群馬一區 (五人)		
須永 好 社	大 八、五八八	八位落
田中 澤二 美 正	九、六八六	七位落
同 二區 (四人)		
林 興重 國	同 四、四九二	六位落
栃木一區 (五人)		
石山 寅吉 社	大 八、〇〇三	次點落
同 二區 (四人)		
栗原彦三郎 國	同 一〇、八八四	六位落
北海道三區 (三人)		
渡邊 春邦 勸 興	六、一五九	二位當
同 四區 (五人)		
赤松 克廣 國民協會	七、九七六	七位落
秋田一區 (四人)		
金 作之助 美 正	六、一二六	六位落
同 二區		
川俣 清音 社	大 一七、四一五	最高當
山形一區 (四人)		
佐藤 啓 國	同 一六、五七八	四位當
同 二位 (四人)		
佐藤 理吉 國	同 七、九六七	次點落
宮城一區 (五人)		
菊地美之輔 社	大 九、六九八	次點落
長谷川陸郎 國	同 四、八七九	十位落
同 二區 (三人)		
佐々木東吾 社	大 四、四四六	六位落

長野二區 (三人)

小山 亮 中 立 一二、〇九三 二位當
 菅澤與四二 國 同 八、六四二 五位落
 同 三區 (四人)
 戸田 由美 國 同 五、二六九 七位落
 中原 謙壽 郷軍同志會 一一、〇四九 四位當
 同 四區 (三人)
 田中 耕 養 正 七、八七七 次點落
 關 重忠 郷軍同志 四、四四〇 七位落
 新潟二區 (四人)
 高岡 大輔 國 同 一三、一二八 四位當
 同 三區 (五人)
 三宅 正一 社 大 一八、〇二五 三位當
 大竹 貫一 國 同 二二、五五〇 最高當
 富山二區 (三人)
 高廣 三郎 新日本同志會 二、八五三 七位落

静岡二區 (四人)

山崎 銀 社 大 一一、一七七 四位當
 愛知五區 (三人)
 鈴木 正吾 國 同 一七、二〇四 最高當
 杉浦 武雄 社 同 一四、〇二八 三位當
 大阪一區 (三人)
 田茂 清臣 社 大 二三、四四八 最高當
 同 三區 (四人)
 塚本 重藏 社 大 一一、八五二 三位當
 高梨 乙松 國 同 五、九三八 七位落
 同 四區 (四人)
 川村保太郎 社 大 二五、五二一 三位當
 手島 剛毅 新日國同 四、七六四 八位落
 同 五區 (四人)
 杉山元治郎 社 大 三三、八八四 最高當
 京和一區 (五人)

水谷長三郎 社 大 一八、四四二 最高當
 藪田九一郎 明 倫 四、二四八 九位落
 同 二區 (三人)
 石原廣一郎 明 倫 七、八五三 五位落
 滋 賀 (五人)
 田中 兼達 國 同 一四、〇二〇 五位當
 梅澤 次作 勤勞民衆同盟 五、二四五 九位落
 奈 良 (五人)
 江藤源九郎 中 立 一九、八四一 最高當
 北浦圭太郎 國 同 七、九一〇 八位落
 和歌山一區 (三人)
 小壺銅太郎 國 同 三、六六九 六位落
 兵庫一區 (五人)
 河上丈太郎 社 大 三六、八八〇 最高當
 高谷辨一郎 國 同 二、二七八 十位落
 同 二區 (四人)

長尾 有 全 農 七、二四一 七位落
 同 三區 (三人)
 河合 義一 社 大 一一、四〇〇 次點落
 同 四區 (四人)
 清瀬 一郎 國 同 二一、八一五 最高當
 岡山一區 (五人)
 黒田 壽男 全 農 一二、四七四 五位當
 伊丹 松雄 明 倫 九、五九三 七位落
 廣島一區 (四人)
 高橋 武夫 社 大 九、三二九 六位落
 三上 序一 農民俱樂部 七、三五一 七位落
 同 三區 (五人)
 原 利重 養 正 三、〇二九 七位落
 鳥 取 (五人)
 由谷 義治 國 同 一四、二三三 四位當
 香川一區 (三人)

海川 正一 全農系	九、九五七 次點落	同 三區 (五人)	野口 彦一 社	大	三、五九六 十一位落
竹島一區 (三人)			稻宮 稔人 皇	道	八、〇七二 九位落
宮水 正衛 國	同		同 四區 (四人)		
宮知一區 (三人)	七、四九三 五位落		田原 春次 社	大	八、三六一 次點落
大石 大土佐農民組合二一、一七七	最高當		小池 四郎 愛	政	八、三〇七 六位落
同 二區 (三人)			堂本 代廣 社	大	三、九五七 八位落
佐竹 晴記 社	大 一九、九四三 最高當		宮原六三郎 同	盟	一、九七三 九位落
同 一區 (四人)			熊本一區 (五人)		
中野 正剛 翁	興 二一、六八六 最高當		安達 謙藏 國	同	二二、九九三 最高當
簡井 凡夫 大日本革新會	八、五七三 八位落		石坂 繁 國	同	一七、〇二六 五位當
松本治一郎 全水系	一四、四三九 三位當		宮村 又八 社	大	四、五四二 次點落
同 二區 (五人)			同 二區 (五人)		
龜井貞一郎 社	大 三四、一五九 最高當		伊豆 富人 國	同	一五、二〇二 五位當
三浦 愛二 社	大 九、九八七 次點落		藤原 敏捷 國	同	一六、六〇二 四位當
本郷 松春 美	正 一、二五〇 九位落		佐賀二區 (三人)		
青柳長次郎 翁	興 一、三三三 十位落				

無産派

第二表 無産派及右翼派比較表

森 峰一 國	同	八、四八八 五位落
長崎一區 (五人)		
大塚 卯作 美	正	一、五二一 八位落
同 二區 (四人)		
中田 正輔 國	同	七、四一五 六位落
宮 崎 (五人)		
三浦 虎雄 國	同	一五、五五六 最高當
鹿兒島一區 (五人)		
三原半次郎 國	同	四八八 十二位落
同 二區 (四人)		
富吉 榮二 地方無産	一五、四三四 二位當	
沖 繩 (五人)		
伊藤 幸國 同	一五、三一八 二位當	

立候補者數	當選者數	次點者數	總得票數	人
社會大衆黨	五	八	五八、七四	一七、三三
全 農	二	一	一九、七五	一
全 評	一	一	五、七四	一
地方無産	四	二	四、三七	二、五二
中 立	三	二	一、四九	三、三三
合 計	四〇	二四	六四、五三	一六、八三
右翼派				
國民同盟	三	五	三二、五五	九、七四
猶興會	四	三	五、〇六	一三、三三
美正會	七	一	三〇、七七	四、九七
皇道會	二	一	三、〇五	一
明倫會	五	一	三、七三	六、七三
國民協會	二	一	一〇、九五	一
海軍同志會	二	一	一五、四九	一

第五表 無産政黨選戰績表

第一次國會選舉黨派別成績

(昭和三年二月)

黨名	立候補者數	當選者數	得票總數
勞働農民黨	三九	二	一八四、九四六
社會民衆黨	一七	四	一三一、五六五
日本農民黨	一二	〇	四一、四二七
日本勞農黨	一五	一	九三、四七七
地方無産黨	七	一	四八、一八一
計	八二	八	四九九、五九七

第二次國會選舉黨派別成績

(昭和五年二月)

黨名	立候補者數	當選者數	得票總數
社會民衆黨	三五	二	一七八、七〇一

黨名	立候補者數	當選者數	得票總數
日本大衆黨	二三	二	一五九、五七七
勞働農民黨	一四	一	七三、六一七
全國民衆黨	四	一	一九、六九五
地方無産黨	二二	一	五七、五四一
計	九八	五	四八九、一三一

第三次國會選舉黨派別成績

(昭和七年二月)

黨名	立候補者數	當選者數	得票總數
社會民衆黨	一六	三	一一一、四九五
全國勞農大衆黨	一三	二	一三三、二八八
日本國家社會黨準備會	二	一	二、三五一
無産團體	五	一	一八、八七六
愛國團體	二	一	四、五七一
計	三八	五	二九〇、六八一

附 錄

我黨代議士錄

立候補地區と略歴

河野 密

(東京第一區 牛込、麻布、四谷、麹町、芝、赤坂)

黨政策委員長、全日本労働總同盟副會長、辯護士、千葉縣に生る、東京帝國大學卒業、同志社大學講師、日本大衆黨書記長、四十歳
當選一回

得票數 一四、三八七
定員五人 第一一位



安部 磯雄

(東京第二區 下谷、本郷、小石川、神田)

黨中央執行委員長、福岡市に生る、同志社大學卒業、獨大學卒業、同志社大學教授、早稻田大學教授、當選三回、七十二歳

得票數 二〇、三七四
定員五人 第一一位



淺沼稻次郎

(東京第四區 本所、深川)

黨組織部長、同東京府聯合會、社會新聞社長、著述業、東京府に生る、農民労働黨書記長、早稻田大學卒業、東京市會議員、當選一回、三十九歳

得票數 一三、八〇五
定員四人 第一一位



川村保太郎

(大阪第四區 西淀川區、東成區、旭區、住吉區)

黨中央執行委員、官業労働組合總同盟主席、大阪府に生る、國際労働會議、日本代表、大阪市會議員、四十三歳、當選一回

得票數 二五、五三一
定員四人 第三一位



杉山元治郎

(大阪第五區 三島、河内、北河内五郡)

黨顧問、全國農民組合中央委員長、齒科醫師、新潟縣に生る、東北學院卒業、農民労働黨執行委員長、五十二歳、當選二回

得票數 三三、八八四
定員四人 第一一位



佐竹晴記

(高知第二區 吾川、高岡、幡多三郡)

黨中央執行委員、同高知縣支部聯合會會長、辯護士、高知縣に生る、中央大學卒業、縣會議員、當選一回、四十一歳

得票數 一九、九四三
定員三人 第一一位



河上丈太郎

(兵庫第一區 神戸市)

黨議會對策部長、同兵庫縣支部聯合會會長、辯護士、東京府に生る、東京帝國大學卒業、關西學院教授、內閣調査局専門委員、四十八歳、當選二回

得票數 三六、八八〇
定員五人 第一一位



川俣清音

(秋田第三區 平鹿、由利、仙北、雄勝四郡)

黨中央執行委員、同秋田縣支部聯合會會長、全國農民組合秋田縣聯合會會長、著述業、北海道に生る、早稻田大學卒業、三十八歳、當選一回

得票數 一七、四一五
定員三人 第一一位



龜井貫一郎

(福岡第三區 若松市、八幡市、戸畑市、直方市、飯塚市、遠賀鞍手嘉穂三郡)

黨調査部長、同福岡縣支部聯合會會長、著述業、神奈川縣に生る、東京帝國大學卒業、公使館書記官、慶應大學講師、日本労働學校講師、四十五歳、當選三回

得票數 三四、一五九
定員五人 第一一位



山崎劔二

(静岡第二區 沼津市、賀茂、田方、駿東、富士四郡)

黨中央執行委員、同静岡縣支部聯合會常任執行委員、全國農民組合静岡縣聯合會組織部長、静岡縣に生る、御殿場實業學校卒業、静岡縣々會議員、沼津市會議員、滿鐵社員、三十五歳、當選一回

得票數 一一、一七七
定員四名 第四一位



昭和十一年四月廿七日 印刷納本
昭和十一年四月卅日 發行

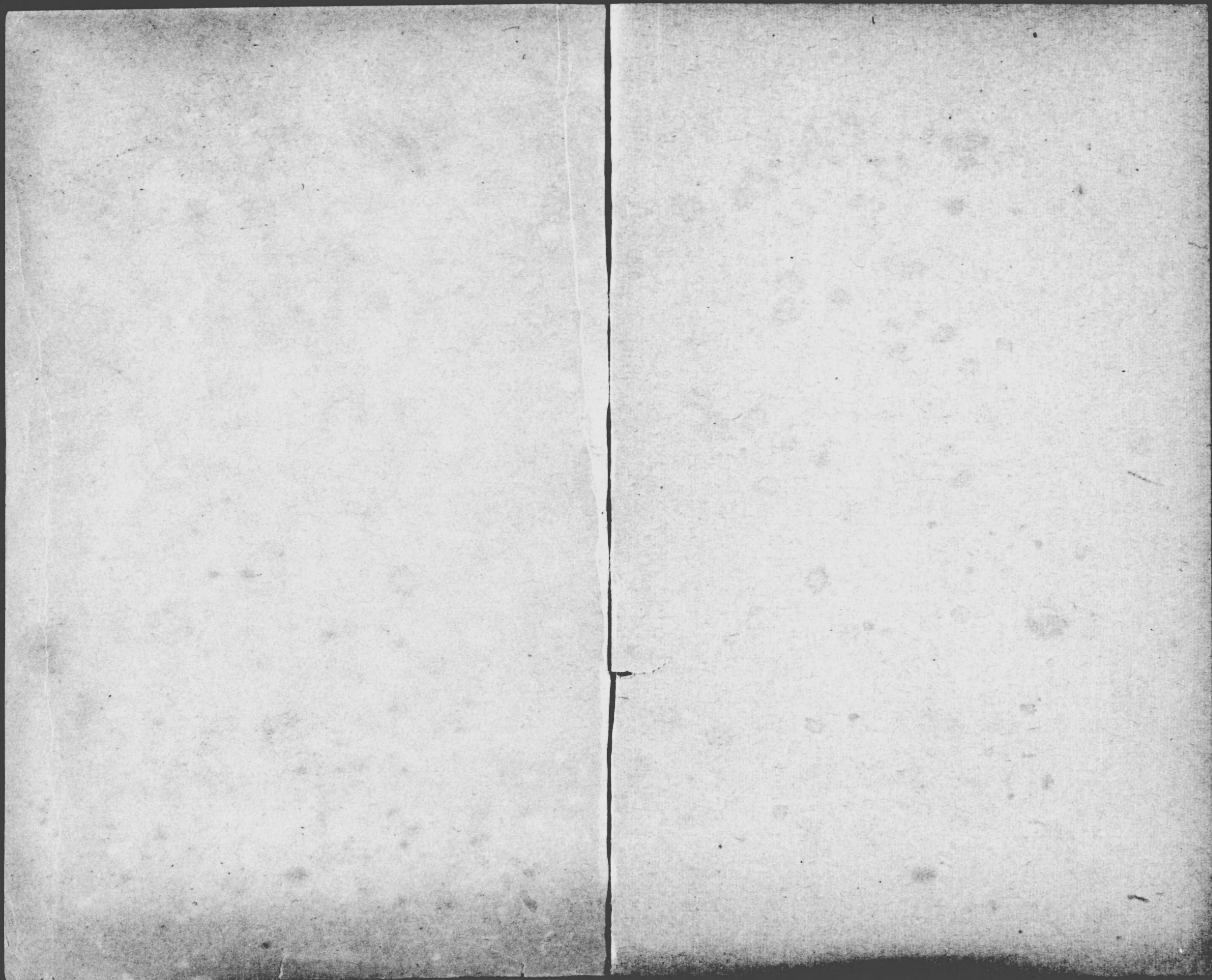
【定價十五錢】
送料二錢

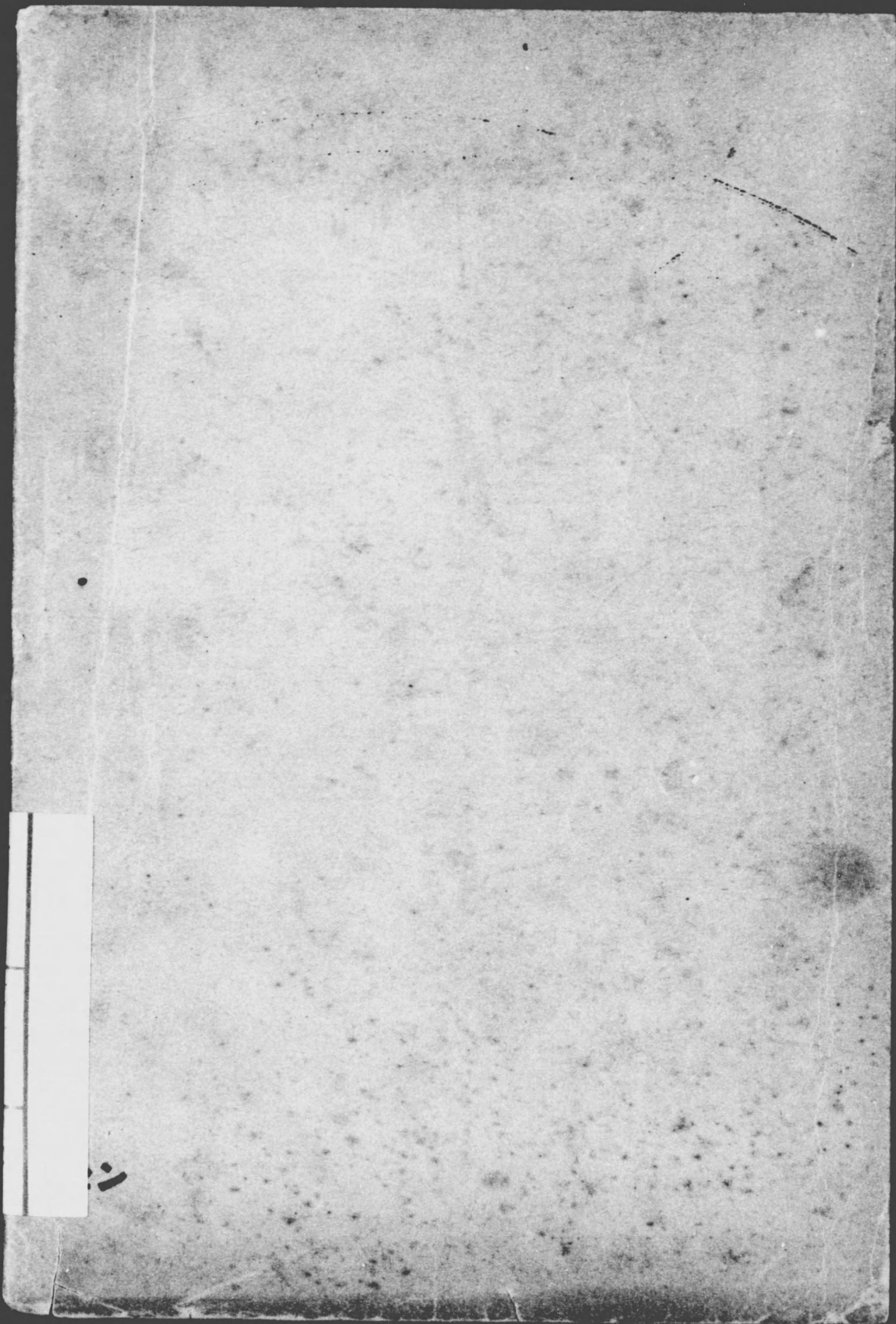
複製
不許

日本橋區吳服橋二ノ一、山下アークード
社會大衆黨出版部
編纂發行及
印刷人 平野學

發行所
日本橋區吳服橋二ノ一、山下アークード
社會大衆黨出版部
電話日本橋(24)一〇七八番
振替東京四六六四九番







2